

< 機械・農作業の共同化を目標としている事例 >

大型機械の共同購入によりコスト削減を目指す

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	秋田県北秋田市 <small>きたあきたし</small> 阿仁幸屋 <small>あにこうや</small>			
協 定 面 積 4ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲、転作作物	-	-	-
交 付 金 額 85万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	担当者活動経費		8%
		体制整備に向けた活動経費		4%
		水路・農道等の維持管理費及び共同防除		32%
		農用地の維持・管理活動費		6%
協定参加者	農業者4人			

2. 集落マスタープラン及び農用地保全マップの概要

幸屋集落は農家の高齢化が進み農業の維持が困難になりつつある。水稲の作付けが主ですが、農地の地力も低下してきている。こうした中、大豆等の集団転作や、水稲と転作作物との輪作、堆肥や土壌改良材を使つての地力向上を進める等の取り組みを展開するとともに、高額な農機具を個人で導入するのは困難であることから、大型機械を共同購入することによって生産コストを下げることを目標とした。

また、農作業の体験を知らない子供が殆どという現状を考え、子供達に農作業を通じて、自然生態系の保全に関する認識を醸成する取組を行うこととしている。

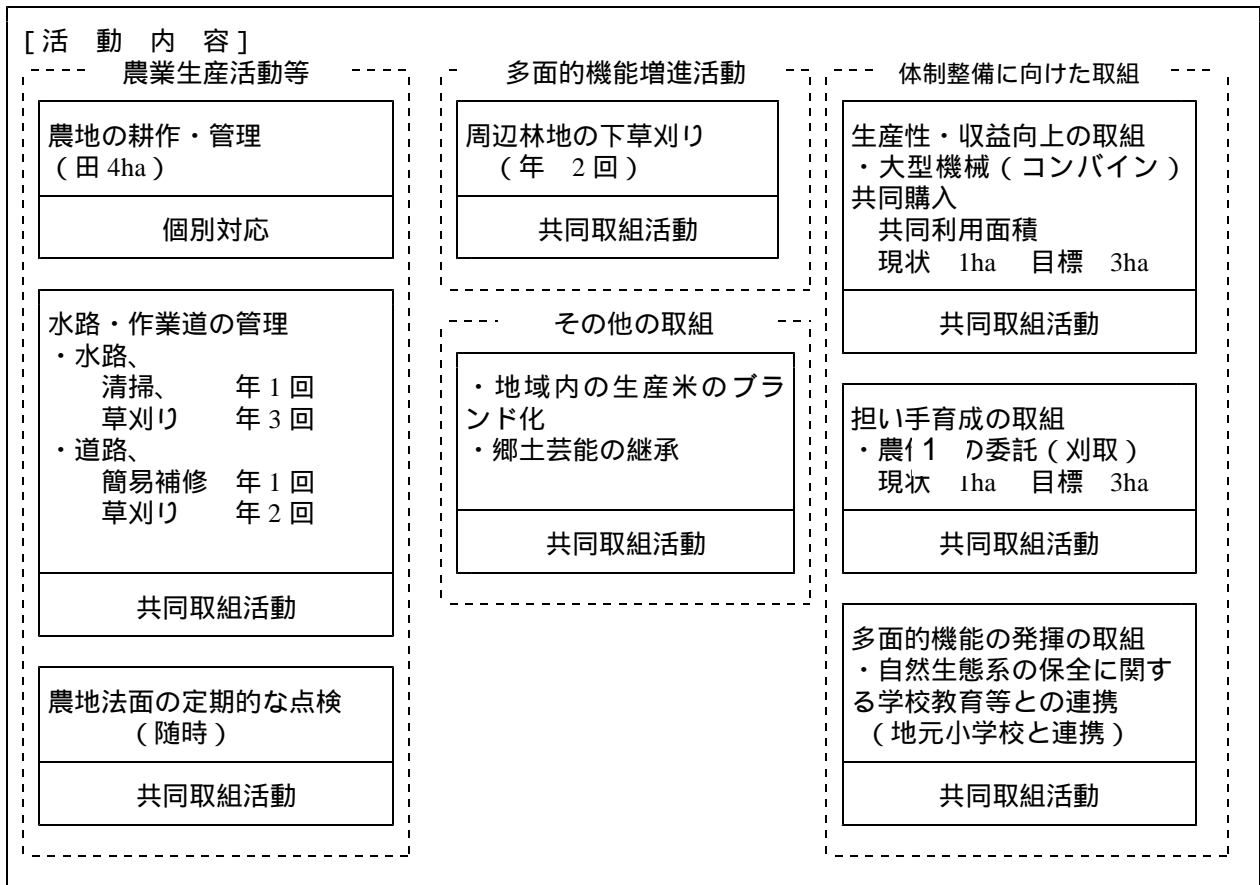
農用地保全マップは、農業生産活動に支障がある農地法面、水路及び農道を明確化し、5年間で水路（延長 800 m）についてはU字溝及びコルゲトパイプの敷設を実施し、農道（延長 300 m）については、計画的に砂利を敷くことにしている。



< 共同防除 >



< 水路の整備 >



3. 取り組むべき事項の活動内容

生産性・収益向上の取り組みとして、大型機械を共同購入し効率的な利用を図り、3ha(協定面積の75%)共同利用を目標に取り組む。担い手育成の取り組みでは、高齢化で維持管理が困難となる農用地を積極的に受委託することとしている。

多面的機能発揮の取り組みでは、地元の農家と連携し、子供たちに農作業体験を通じて、自然生態系の保全に関する取り組みを展開することとしている。

また、地区内の生産米をブランド化し、首都圏に販売する等により都市住民との交流を推進するとともに、郷土芸能を子供たちに継承し、地域内の活性化を図る活動を展開することとしている。

<p>[平成21年度まで取り組む目標]</p> <p>大型機械の共同購入・共同利用(コンバイン1台)現状1ha 目標3ha</p> <p>担い手への委託 現状1ha 目標3ha</p> <p>郷土芸能(幸屋扇奴)を子供たちに継承し、地域を活性化。</p> <p>積極的に受委託と利用権設定農地利用集積を行い生産コストを下げる。</p> <p>地区内の生産米をブランド化して首都圏に販売。</p> <p>大豆等の集団転作をして、水稻と転作作物の輪作をする。</p>
